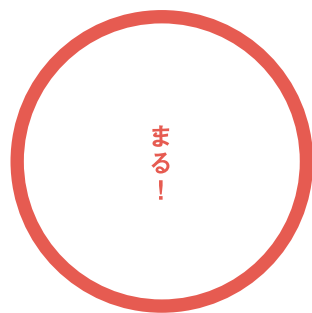


三重県
移住
ガイド

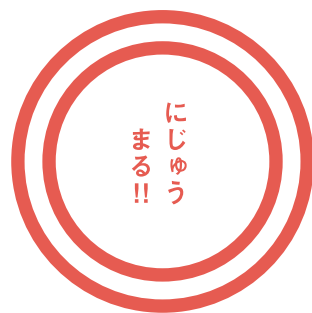
さんじゃうまるだね！
三重！

MIE

知って



行って



住んで



目次

知って ○ 三重県ってこんなところ

03

行って ○

三重へのアクセス

北勢エリア

伊賀エリア

中勢エリア

伊勢志摩エリア

東紀州エリア

04

住んで ○

私たちの「さんじゅうまる」

移住者①(四日市市・岡本さん)

移住者②(伊賀市・居附さん)

移住者③(松阪市・高杉さん)

移住者④(鳥羽市・行野さん)

移住者⑤(尾鷲市・中森さん)

11

三重で暮らす

三重で働く

暮らし体験／下見のススメ

移住までのSTEP9

市町相談窓口・三重暮らし応援制度一覧

移住相談窓口

22

26

30

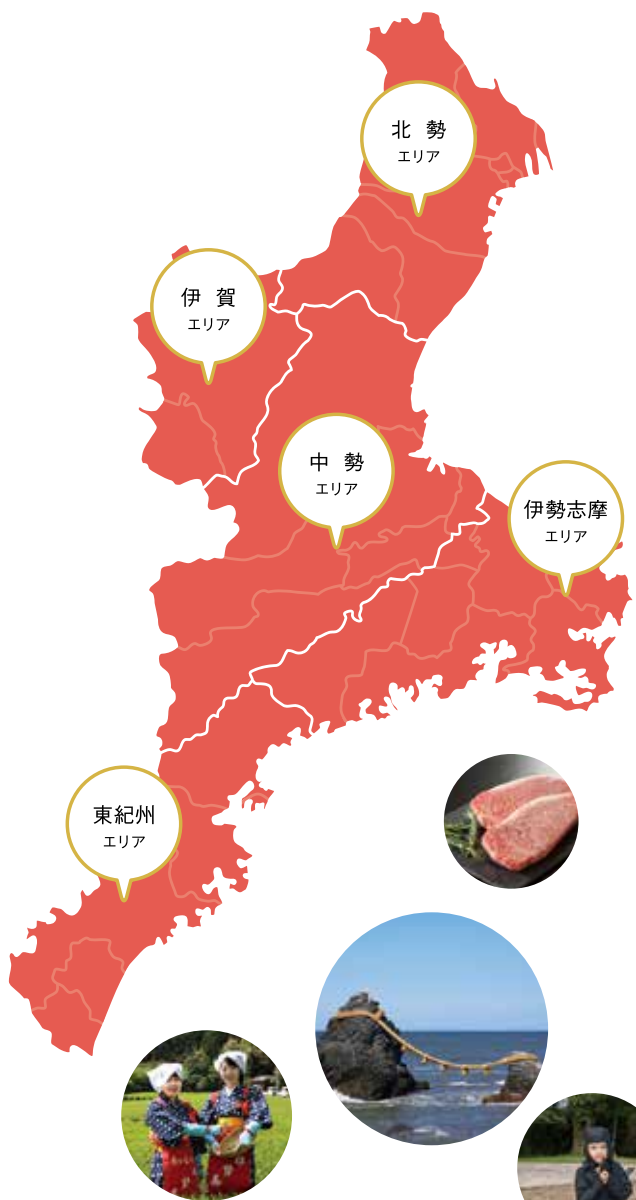
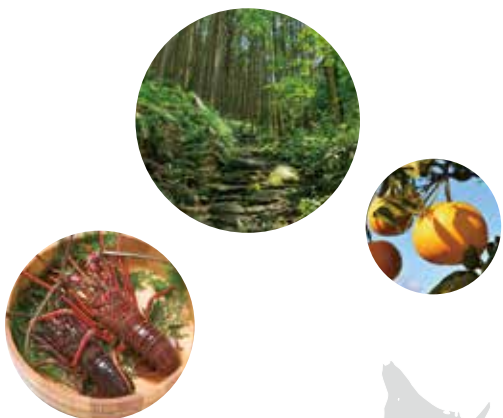
32

34

知って 三重県ってこんなところ



日本のほぼ真ん中に位置する三重県は、南北に細長く、5つに分けられる地域それぞれに豊かな自然、豊かな食べ物、豊かな文化が溢れています。名古屋や大阪へのアクセスが良好な都市がある一方、海や山、川など自然豊かな地域もあり、ライフスタイルに合わせた暮らしができます。知れば知るほど、いいところ〓〓が増えていくことでしょう。



三重県の広さ

面積	5,774 km ²	東西 約 80km	南北 約 170km
人口	1,715,783 人		
海岸線	1,083 km	全国 8 位	
自然公園面積	208,477 ha (県土の約36%)	全国 3 位	
人口: 令和6年4月1日現在			

三重県の気候

年間平均気温	津市 16.9℃	東京都 16.4℃
年間日照時間	2,194 時間	全国 14 位

統計でみる都道府県のすがた 2024

知って

行って

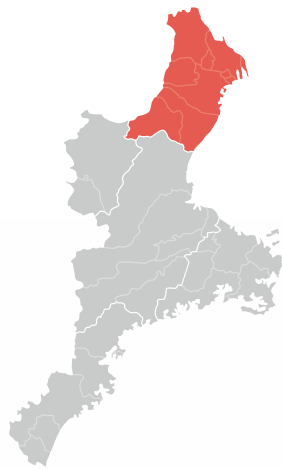
住んで

行って にじゅうまる!!

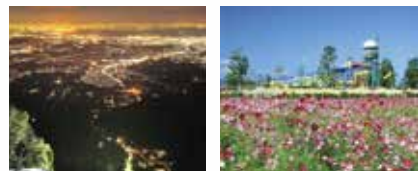
北勢エリア

中京圏へのアクセス良好
経済・産業の中心エリア

県北部に位置する北勢エリアは、高速道路や鉄道などが整備され、名古屋など中京圏へのアクセスが良いことから、人口の多い市町が集まっています。さらに、東海環状自動車道の全線開通に向けて工事が進められており、利便性のさらなる向上が期待されています。製造業などが盛んで経済的に活発でありながら、旧東海道沿いには、古い町並みも残り、当時をしのばせる風情があります。市街地から足を延ばせば、自然豊かなエリアが広がり、都市暮らしと田舎暮らしの両立が可能な地域です。



▲北勢線と藤原岳(いなべ市) ▲住宅地の風景(桑名市)



▲御在所岳からの夜景(菰野町) ▲東員町中部公園(東員町)



▲関宿祇園夏まつり(亀山市) ▲中心市街地(四日市市)



▲鈴鹿サーキット8耐(鈴鹿市)



▲町民参加の体育祭(木曽岬町)



▲八王子祭り(朝日町)



▲高松海岸(川越町)

行って にじゅうまる!!

伊賀エリア

関西圏への通勤者も
歴史と自然に包まれて

特急を使えば、大阪市街地まではわずか1時間足らずとアクセス良好。関西圏へ通勤・通学する人も多く、ベッドタウンとしても知られています。自動車専用道路である名阪国道(国道25号)が東西に走り、新名神高速道路が付近を通ることから、交通の便に優れ、製造業などの企業が多く進出。このエリアには、忍術の流派「伊賀流」が伝わり、ゆかりの寺社をはじめ、当時の面影を今に伝える博物館や屋敷が残ります。また、盆地地形を利用した米や酒づくりが盛んです。



▲伊賀盆地(伊賀市)



▲子ども忍者(伊賀市)



▲サイクリング(名張市)



▲上野天神祭(伊賀市)



▲住宅街の風景(名張市)



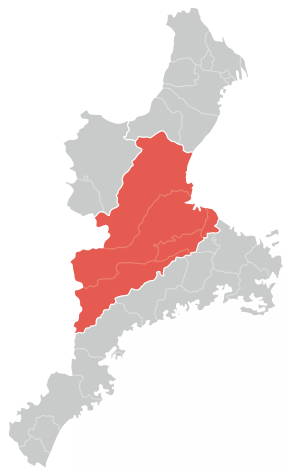
▲赤目四十八滝(名張市)

行って
にじゅうまる!!

▼
中勢エリア

行政の中心エリア
都市暮らしで自然も満喫！

人口約27万人の県都・津市がある行政の中心地。高速道路や電車などの交通網も整備され、名古屋や関西エリアへのアクセスも便利です。一方、中山間部では清流や渓谷が美しい景観を織り成し、自然の恵みを生かした農業や林業、畜産業が盛んです。天皇に代わって伊勢神宮に仕えた斎王の宮・斎宮跡があるほか、日本三大商人である伊勢商人を輩出するなど、歴史が根づく中勢エリア。さらに、ユニescoエコパークがあるなど自然も豊かで、さらなる地域活性化や観光振興に期待が高まっています。



▲中心市街地(津市)



▲林業に従事する人たち(松阪市)



▲大杉谷溪谷(大台町)



▲斎王まつり(明和町)



▲「おばあちゃんの店」(多気町)

行って
にじゅうまる!!

▼
伊勢志摩エリア

歴史と自然あふれる
著名スポット多数

日本人の心のふるさととして崇敬を集める伊勢神宮をはじめ、リアス海岸が織り成す景観を楽しめる伊勢志摩国立公園など、県有数の観光スポットが集まるエリア。2016年には、先進国首脳会議（サミット）が開催されました。古くは「御食国（みけつくに）」と呼ばれていた歴史を持つなど豊富な海の幸に恵まれ、漁業や水産業、農業などが盛ん。独自の文化を育んできたことでも知られ、「鳥羽・志摩の海女漁の技術」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。



▲農業も盛ん(玉城町)



▲おかげ横丁(伊勢市)



▲SUPをする子どもたち(度会町)



▲大紀町阿曾地区の風景(大紀町)



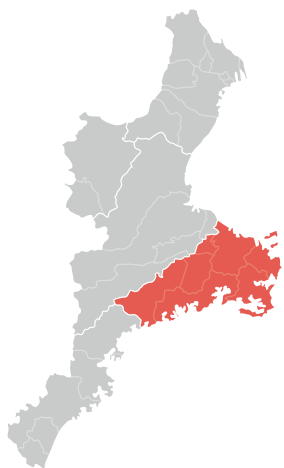
▲漁港と移動販売車(南伊勢町)



▲サーフィン(志摩市)



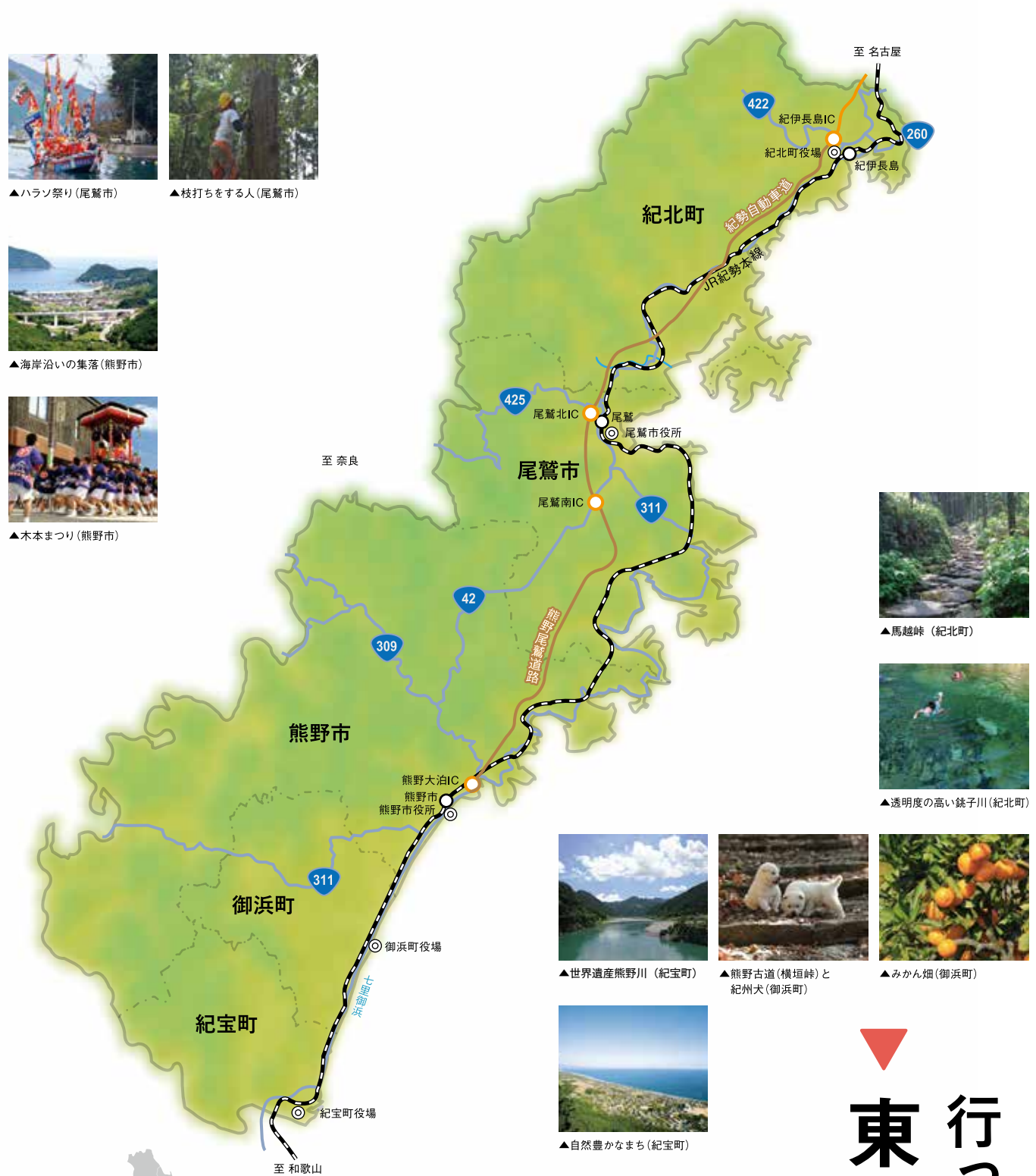
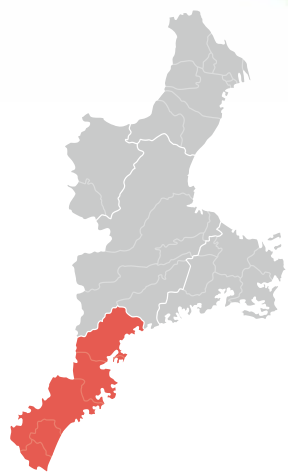
▲親子でワカメ漁(鳥羽市)



行って 東紀州エリア

自然に囲まれた
人情味ある温かなまち

熊野灘に面した県最南部では、漁業はもちろん、温暖な気候を生かしたミカン栽培が盛ん。ミカンは年間を通じて栽培され、その種類は、数十にも及びます。さらに、国内有数の多雨地域であることから、古くから林業や木材業も営まれ、「尾鷲ヒノキ林業」は、日本農業遺産に認定されています。山と海に囲まれ、食や祭り、民俗など独自の郷土文化が根づく東紀州エリア。人情味ある豊かなコミュニティが形成され、のんびりとした理想の田舎暮らしをかなえてくれます。



住んで

5組の先輩移住者に聞いた

私たちの「さんじゅうまる」

移住者インタビュー

近年、増加傾向にある三重県への移住者。「家族の将来を見据えて」「大自然に魅せられて」などその理由は、さまざまです。さんじゅうまるの暮らしをかなえた先輩移住者の日々をご紹介します。

（移住者インタビューの内容は令和7年2月時点）



北 勢
エリア

P.12 岡本さん



伊 賀
エリア

P.14 居附さん



中 勢
エリア

P.16 高杉さん



伊勢志摩
エリア

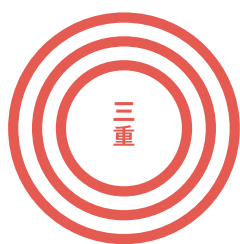
P.18 行野さん



東紀州
エリア

P.20 中森さん

住んで



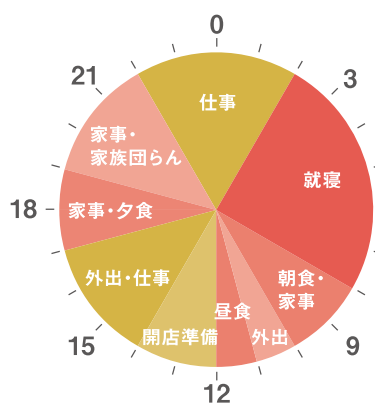
移住者インタビュー ①

おいしい食材と自然、温かな人に囲まれて 四日市でかなえた理想の子育て



- 1 店舗の目の前にある諏訪公園は、岡本さん一家のお気に入りのスポット。空き時間には、園内にある四日市市立児童館や、カラフルな大型遊具で遊ぶといいます。
- 2 のびのびとした環境での子育てを望んでいた亜希さんにとって、都市でありながら自然もある四日市は理想の地。いちゃんが生まれてからは自炊するようになり、生活リズムも大きく変わりました。
- 3 子育て、店舗運営、デザイン業と三足のわらじを履く亜希さん。デザイナーとして、ロゴや名刺、ショップカード制作を担うほか、WEBや映像なども手がけます。
- 4 店の看板メニュー「自家製ソーセージ」。素材選びから、腸詰め、調理までの全工程を英志さんが担当。三重県産の豚肉を使用した一品は、ワインとの相性抜群。

ある一日のスケジュール（亜希さん）



- 深夜まで働く英志さんが起床したら、3人で昼食をとりながら、家族団らんのひとときを過ごします。
- 昼食後は自宅から店に移動。英志さんといちゃんは買い出しへ。亜希さんは店で開店準備を進めます。
- 子どもの就寝後が亜希さんのワークタイム。デザイン作業をするほか、ウェブサイトや本を見て感性を磨きます。

ここが「住んで三重」！

- ☒ **海、山、温泉がすぐそこに！**
都内で子育てをする友人は、「公共交通機関でのベビーカー利用に不便さを感じ、出かけるのが億劫になることもある」といいます。三重での暮らしは、車を30分走らせれば、海や山、温泉に気軽に出かけられるのがいいですね！
近隣スポットでは、湯の山温泉や四日市市ふれあい牧場がお気に入りです。
- ☒ **水や食べ物などのおいしさに感動！**
とにかく、水も食べ物もおいしい。水との相性が良いのか、肌荒れも改善したように思います。おいしい野菜が安価で手に入るのも、うれしいポイント。素材そのものの味が良いので、味つけにも苦労しません。véloでは、契約農家さんから仕入れた朝どり野菜を提供しています。リゾットに使用する玄米は伊賀産です。

「大きな遊具のある公園が近所にたくさんあり、車で少し足を延ばせば、動物と触れ合える牧場もある。のびのびと子どもを育てられる環境です」と三重暮らしを満喫しています。休みの日は、温泉などへ出かける岡本さん一家。「東京にいたときは、人混みを避けるため日中に出かけることは少なかったのですが、今は車を30分走らせれば、海も山も温泉だって、気軽に出かけられます。リフレッシュが上手にできるようになりました」と、日々の暮らしにも変化が現れているようです。

移住を機に、フリーランスのデザイナーへ転身。véloのロゴ制作や店舗デザインを皮切りに、近年は地元飲食店からロゴなどの制作依頼が増えたといいます。「現在は東京在住時から継続している案件と、四日市の仕事で半々の割合です。個人で活動するようになってクライアントとの距離が近くなり、細やかな提案が可能になりました」と微笑みます。今後は新たな取り組みにも挑戦したいと力を込め、「依頼者の希望に合わせたオリジナルグッズなどを手がけていきたいです」と夢を膨らませます。

いちゃんとの時間も大切にしながら、仕事に励む亜希さん。「新しい環境で、困難にぶつかることもあるだろうけど、三重には、おいしいごはんや豊かな自然があり、温かい地元の人がいるからきっと乗り越えられます。やってみれば、なんとかなるものですよ！」と、移住を検討する方にエールを送ります。

夫の夢を支えたいと三重への移住を決意

「伊勢神宮と鈴鹿サーキットは知っていたけれど、移住前は三重がどこにあるのかも定かではありませんでした」と笑うのは、移住5年目の岡本亜希さん。夫・英志さんがオーナー&シェフを務める「wine & kitchen vélo」のオープンを機に、四日市市にやってきました。現在は子育てをしながら、店舗運営をサポートするほか、本職のデザイン業に大忙しの日々を送ります。

亜希さんは、埼玉県出身。大学卒業後は都内にある電機メーカーで働き、インダストリアルデザイナーとして、機械製品の設計に携わっていました。2013年、鈴鹿市出身の英志さんと結婚。「三重県で飲食店を開きたい」という英志さんの夢をかなえるべく、亜希さんは移住を決意しました。

仕事に子育てに大満足の三重暮らし

2015年、いちゃんが誕生。市内で月に1度開催されているマーケット「四日の市」での出会いをきっかけに、四日市へ移り住んできた若い世代との交流も生まれ、地域活性に向けた活動も見据えています。

御食国ならではのおいしい食材を提供

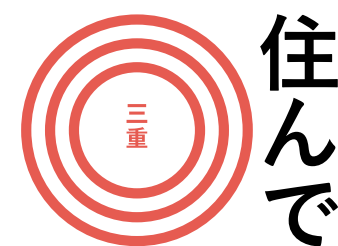
véloでは、フランスの田舎料理やワインを提供しています。「メニューには、新鮮な朝どり野菜をはじめ、菰錦豚やさくらボークなど、三重ならではの食材を使用しています」と英志さん。料理ごとに異なる県産肉を使い分けるなど、素材の味を生かしています。亜希さんも、三重県の食材が夫のお気に入り。「凝った味つけをしなくても、素材の味だけで十分おいしい」と話します。

プロフィール



岡本 英志さん、亜希さん、いちゃん

英志さんが出身地・三重県で飲食店を開業するのを機に2013年、四日市市へ移住。亜希さんは、店舗運営、デザイナー、子育ての三足のわらじを履いています。



移住者インタビュー 2

夫婦で大阪から伊賀へ移住。 想いをつなぐデザインで地域とつながる

プロフィール Profile



いつき 居附 孝志さん、末希さん

デザインの専門学校で出会い、結婚を機に伊賀市へ移住。現在は自宅仕事でデザインをしながら、地域に根差した活動も展開しています。

リモートワークで 叶えた自由な働き方

大阪から伊賀に移住し、デザイン事務所を立ち上げた居附孝志さんと末希さんご夫婦。二人はデザインの専門学校で出会い、2022年に結婚を機に末希さんの実家がある伊賀へ移住することを決めました。末希さんは以前から「いつかは伊賀に戻りたい」という思いを抱いていた中、「コロナ禍でリモートワークが普及し、場所に縛られない働き方が可能になったことが移住の大きなきっかけとなったそうです。

移住のタイミングで実家の敷地に新居を建て、新しい暮らしがスタート。移住当初はそのまま会社員としてリモートワークを続けていましたが、「三重に移住してきました」と周囲に話したところ、思いのほか多くの仕事の依頼が舞い込

夫婦で共創する デザインのカタチ

2人が立ち上げた「GENE・CO.」では、チラシやフライヤーのデザイン制作を中心に、企画段階からの提案やデザインを活用した集客方法の企画まで幅広く手がけています。

主に孝志さんは企画やプランニング、イラストを担当し、末希さんはデザインを担当。互いの経験とスキルを活かして、役割分担をしながら意見を出し合い、より良いものを作り上げていきます。時には意見の違いでぶつかることもあるそうですが、それも良いものを生み出すために必要な過程だと前向きに捉え、双方のアイデアを柔軟に取り入れていきます。

自然の中で暮らす 移住後の生活の変化

大阪に住んでいた頃は、仕事が遅くまで続くことが多く、外食やデリバリーを頼むことが多くありましたが、伊賀での生活を始めてからは、料理をする時間が増え、栄養バランスを意識した食事を楽しむようになったとのこと。2人は「お金を使う機会が減りました」と笑います。

また、末希さんは以前趣味らしい趣味がなかったそうですが、移住後は自然に囲まれた環境とゆとりある時間が手に入ったことで、趣味の幅が大きく広がったそう。最近では、登山や釣りなど、自然の中の時間を満喫しています。また、日々パソコンに向かう仕事をしてい

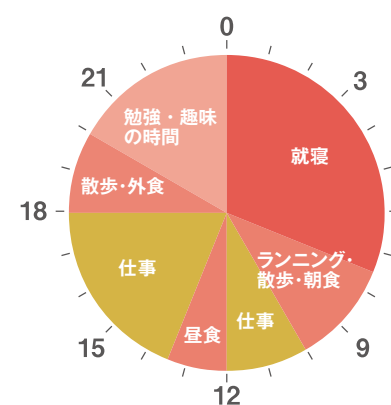
仕事を越えて、 心通う関係を築く

「仕事で出会う人たちと、ビジネスの関係を越えて、茶飲み友だちのような関係を築いていきたいですね。何でも言い合える友だちのような関係性で、相手の想いを汲み取り、デザインを作っていきたいです」と語る2人。

伊賀という自然豊かな地域で、人とのつながりを大切にしながら、想いをつなぐデザインをカタチにしています。

- 1 伊賀の自然に囲まれ、暮らしを楽しみながら、やりたい仕事を実現した居附さん夫婦。
- 2 朝・夕の愛犬との散歩は日課。在宅での仕事スタイルに変わってからは、24時間愛犬と一緒に過ごせることも、うれしい変化だといひます。
- 3 新居の間取りや内装は孝志さんが考えました。DIY好きの孝志さんは、ホームセンターで材料を揃え、家具などもこだわり抜いて手作りしています。
- 4 移住を機に新築した住まいには、仕事スペースも。三重県内の仕事を中心に手がけ、県主催の「三重県移住フェア」のチラシデザインも担当。孝志さんのイラストを活かしたデザインは、名古屋や大阪の会場で多くの人々の目を引き、手に取られました。

ある一日のスケジュール



朝は愛犬との散歩でスタートし、そのままランニングへ。家の周りには田んぼ道が広がり、散歩コースに最適!

2人で仕事の時間をしっかりと決め、オンとオフをメリハリつけて楽しむライフスタイルが実現しています。

就寝前の自分時間もたっぷりと時間を設け、興味のあることを調べたり、知識を入れる時間にしています。

ここが「住んで三重」!

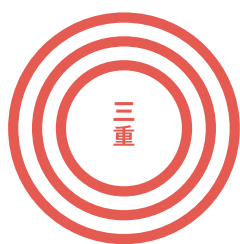
自然と共に暮らす毎日

窓を開けると、目の前に鳥が遊びに来て、バードウォッチングを楽しんだり、野生動物を見つけることも。夜には満天の星空に感動することもしばしば。都会では味わえない自然との触れ合いが、毎日を豊かにしてくれます。

地域の人たちの温かさ

畑で採れたての野菜を地元のおばあちゃんがお裾分けしてくれたり、地域の人たちと温かい交流ができるのが新鮮です。都会ではなかなか味わえない、人とのつながりを感じながら、ほっこりとした暮らしを楽しめます。

住んで



移住者インタビュー ③

古民家カフェ、デザイン事務所、地域づくり。 新たな拠点・松阪市飯高町で充実一途の日々

Profile ■ プロフィール



高杉 亮さん、光穂さん

地域おこし協力隊として名古屋から飯高町に移住。デザイナーの仕事を受けながら古民家カフェを開業。松阪市香肌地域づくり協同組合代表理事も務めています。



1



2



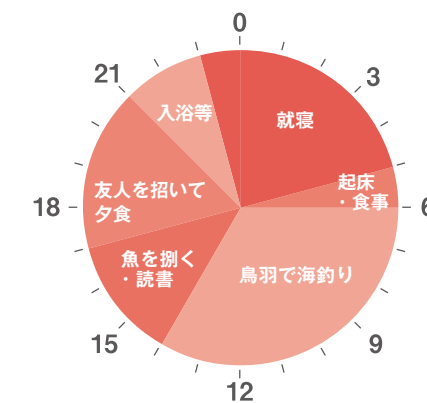
3



4

- 1 「宿泊・食事・喫茶 奥松阪」の前に立つ高杉 亮さん、光穂さん。移住を考えている方は、思い描いていた理想との違いがあっても、そのギャップを楽しむ余裕が大切だと語ります。
- 2 「奥松阪」2階にある高杉さんの仕事場。モノづくりへの意欲を高めている高杉さんは、従来の受託のデザイン仕事を減らし、自分たちが作ったモノをデザインする仕事の比重を高めようとしており、現在、ビール醸造所の建造に取りかかっています。
- 3 「奥松阪」のスタッフとメニューの打ち合わせ。多忙な日々をおくる高杉さんですが、休日には鳥羽へ海釣りに出かけたり、泊まりがけで食事を楽しんだりとプライベートの充実を図っています。
- 4 「奥松阪」では週替わりランチを提供。肉質の良い錦鯉とりに低温で火を入れ、紹興酒と日本酒を使って仕上げた「みえ錦鯉とりの酢鶏（ツイチー）」など、しっかりと手をかけた料理が味わえます。

ある一日のスケジュール



釣りが趣味の高杉さん。休日は近所の人たちに誘われて鳥羽へ出かけ、小さな船に乗って海釣りを楽しむことも。

海釣りから帰った後は釣った魚を捌き、夜は友人を招いての食事の時間。地方での暮らしならではの楽しみを味わえるひとときに。

「奥松阪」には宿泊用スペースもあり、訪れた友人たちが泊まることも。2024年8月には宿泊施設「Stay 奥松阪」も開業しました。

ここが「住んで三重」！

海と山が近くにある暮らし
海釣りが趣味の高杉さん。名古屋からは遠出で釣りに出かけていましたが、松阪市の中山間地域・飯高町からでも鳥羽や紀北町など海沿いの町へ思い立ったらすぐに行くことができ、休日の楽しみが広がりました。

地域と関わって暮らす楽しさ
名古屋で暮らしていた頃は地域との関わり方もわからなかったという高杉さん。飯高町に来て地域の活動に参加したり、人々の温かさに接する中で、地域と関わりながら生活する楽しさを知ったといいます。

都会では感じなかった地域との信頼関係
飯高町で暮らすようになって、高杉さんは名古屋に住んでいた頃と地域とのつながりに大きな違いを感じていました。それは、地域の人たちの接し方も変わってきたこと、周囲の高杉さんを見る目には変化が現れました。「この人たちはもうこの土地から一生離れていくことはないんだ」と認めてもらえるようになって、地域の人たちの接し方も変わってきました。それまでは、協力隊として移住してきても、活動が終わったからこの町から出ていってしまうのではないかと感じていた面もあったのです。

を感じるようになったと言います。「何か困ったことがあったときに、この人に頼めばすぐに動いてもらえるという役割が地域でははっきりしていて、スムーズに物事を進めていくことができます」必要なモノは地元のお店で購入するなどして地域との関係性を築き、信頼関係が生まれているからこそ、都会にはない便利さを感じているようです。移住後は新たに地域のクライアントとのつながりが生まれてデザイン事務所の仕事が増えることに。さらに、「奥松阪」の運営に加えて松阪市香肌地域づくり協同組合の代表理事を務めるなど、活動の幅を広げ続けている高杉さん。第二の人生に選んだ地で充実した日々をおくっています。

地域おこし協力隊をきっかけに移住を決断
松阪市の中山間地域・飯高町にある築120年の古民家をリノベーションした「宿泊・食事・喫茶 奥松阪」。風情のある店内でゆったりとした時間を過ごしながら、地元の食材を使ったメニューを堪能できます。オーナーの高杉さんは名古屋でデザイン事務所代表を務めていたときに仕事で松阪市を訪れたことをきっかけに、松阪市地域おこし協力隊に就任。2020年から飯高町に移住しました。小学2年生の頃から暮らしてきた名古屋を離れることになった高杉さん。名古屋の街なかに事務所を構えてデザイナーとしての仕事も充実していました。しかし、将来的に地価の高い名古屋で家を購入して、ずっと仕事を続けていくべきなのかも考えていました。

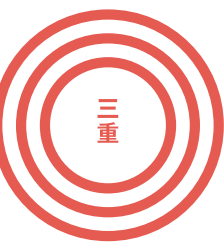
古民家カフェ開業で周囲の目に変化が
飯高町に移住して半年後、地域おこし協力隊の活動を行っている中で高杉さんは一軒の古民家に目を留めました。リノベーションして、人が集うことができる場所にできたら面白いんじゃないかと。家の持ち主と交渉して古民家を譲り受けることに成功し、「奥松阪」の開店に向けて動き始めました。そこには、まちづくりのためというよりも、こういう場所があったらいいなという思いが強くなりました。「どうすればここで自分たちが楽

住んで

三重

移住者インタビュー 4

地域の人々からの縁に恵まれ
鳥羽に新しい風を吹き込む



Profile
■プロフィール



伊勢志摩
エリア

行野 慎平さん

仕事で訪れた伊勢志摩に心惹かれ、2018年12月に鳥羽市へ移住。貸切宿泊施設や多目的シェアスペースなどを事業展開しています。

事業立ち上げの地に 選んだ伊勢志摩

鳥羽駅から徒歩すぐ、観光客も多く足を運ぶ鳥羽市の中心街に、カフェのような外観で佇む「toBashare」。2階は宿泊施設、1階は「ワーキングやイベント開催などで使用できるシェアスペース」として、オーナーの行野慎平さんが2022年にオープンしました。

行野さんはこれまで、静岡県下田市でキャンプ場を運営する会社に従事、閑散期は委託を受けて全国各地のレジャー施設の立ち上げなどに携わっていました。そうした中、仕事で訪れた伊勢志摩に魅了され、伊勢志摩の地で自分で事業展開をしようと移住を決意。当時の事業を通し出会った志摩市出身の奥様みずきさんと結婚し、現在は1人のお子さんを子育て中です。

運命的な出会いを 果たした浦村の空き家

「鳥羽の漁師さんの牡蠣養殖を手伝っていたとき、作業しながら自分のやりたい事業について話しているとある日「ここ使っていないぞ」と言われて案内してくれたのが、鳥羽市浦村にある古い大きな空き家でした。当初から、伊勢志摩の海を舞台にした体験を提供したいと考えていた行野さんにとって、すぐ目の前に広がる桟橋と海は絶好のロケーションでした。素晴らしい場所に出会ったと直感した行野さんは、老朽化していた空き家を半年ほどかけて自分たちで修繕。そうして立ち上げたのが、行野さんのもう一つの事業である、鳥羽市浦村にある団体向け一棟貸切宿「Anchor」。漁師の貸切アジトです。漁師になつた気分が味わえる、というコンセプトの通り、目の前の海でマリナアク

新しいことに挑戦 できる場所を鳥羽に

ティビティを楽しんだり、地元の漁師と連携し生産現場を見学したり、海の味覚を味わったり、釣りをしたりと、ここできか味わえない体験をすることが出来ます。

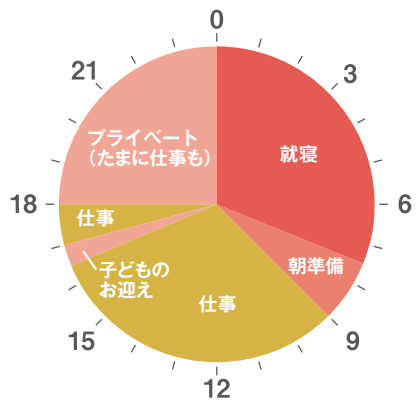
鳥羽に新たな居場所を作り出している行野さんですが、移住してきた当初から、「人に聞いたり、相談すること」がさまざまな縁を呼び寄せたと言います。使われていなかったビルに出会った際、ここを改修すれば面白いことができると持ち主の人に自ら交渉したことで誕生したのが、現在の「toBashare」。「ここにも情報掲載されていない空き家が結構あつ

て。住まいや事業をする場所を探していることを人に話しているうちに、周りの人がいい巡り合わせへと導いてくれました」と、移住したばかりの行野さんに親切にしてくれた人の温かさを感じたと当時を振り返ってくれました。

「toBashare」はこれまでも古着屋や子ども服ショップのポップアップ、マッチングイベントなどの会場として、地域に人を呼びこつたけを作ってきました。「僕のような他地域から来た移住者の人も、やりたいことにチャレンジしやすい場所として使ってもらえたら」と、自身の経験を活かし移住者の交流会なども開催。まだ地域にないものを作り挑戦する人が鳥羽に増えていってほしいという行野さんの思いが詰まっています。

- 1 「toBashare」の2階部分は最大12名が利用できる宿泊施設。「空間にも非日常感を出したかった」と、秘密基地のようなベッドコーナーを案内してくれた行野さん。
- 2 「Anchor」の2階にある広々としたリビングスペース。「Anchor」は行野さん自身によるDIYや、地元の業者さんたちによる協力によって完成しました。
- 3 アクティビティの一つ「牡蠣イカダクルージング」では、海に並ぶ牡蠣養殖のイカダまで漁船で向かい、漁師さんから牡蠣の養殖方法を聞いたり、実際に牡蠣を味わうことも。
- 4 経理などを担当している奥様と「toBashare」シェアスペースの一角にて。休日は子どもと県内の公園や遊び場へ出かけることが多いといいます。

ある一日のスケジュール



サラリーマン時代から比べて、仕事が終わった後のプライベートの時間もしっかり確保できるように。

仕事の内容は日によって大きく変動。施設の清掃や改修、「Anchor」に宿泊のお客さんがいる時にはアテンドを行います。

子どもの朝の支度や保育園への送迎など、育児も夫婦で分担。夜はメールチェックや、奥様は経理の仕事をすることも。

ここが「住んで三重」!

新鮮な海産物など食が豊か

地元の生産者さんと出会う機会も多く、三重は食の恵みが豊かだと実感。新鮮な海の幸や、牡蠣や海苔などの養殖をはじめ、世界的に有名な松阪牛、他にもさまざまな農作物が作られています。「Anchor」のある浦村は美味しい牡蠣が食べられる牡蠣小屋がたくさんあります。

東海地方と関西地方の真ん中の良さ

伊勢志摩は自然が豊かで、伊勢神宮など観光要素が充実している地域です。静岡でレジャーの仕事をしていたときは関東からのお客さんがメインでしたが、三重は東海と関西、近畿地方の真ん中にあることから、いろんな地域の人に訪れてもらいやすいのが魅力です。



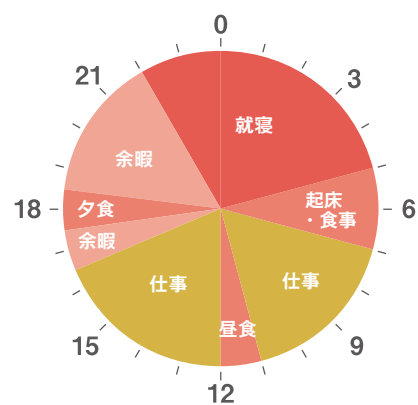
移住者インタビュー 5

都会から故郷・尾鷲へ 自然と共に生きる新たな挑戦



- 1 高齢化した木を伐採し、その木材収入を再植栽に活用する「主伐再生」。伐採後のエリアには防護柵を設け、ひのきの苗木を育てることで、豊かな森を未来へとつなげています。
- 2 1つの現場が終わると、次の現場へと移動し、日々山の環境を整えています。森林の公的機能を支えるための大切な役割を担っています。
- 3 時には26kgの木を担ぐことも。林業という仕事を通して体力がついたそうです。通常体を鍛えるためにジムに通うとお金もかかりますが、働きながら体を鍛えることができているといいます。
- 4 仕事終わりに趣味や自分の時間が持てるようになったと話す中森さん。時には、お昼休みに仕事仲間とちょっと釣りを楽しむといったことも。

ある一日のスケジュール



夕方4時半ごろに仕事が終わりと、友人と遊んだり、釣りをしたりと、余暇が楽しめる暮らしが叶ったといいます。

休日、本を読んだり、映画鑑賞をしたり、自然の中でキャンプを楽しんだり、自分の時間を充実。

夜10時に就寝し、朝5時に起床。健康的なライフスタイルを送っています。

ここが「住んで三重」!

海も山も両方楽しめる環境!

尾鷲市をはじめとした東紀州エリアは、海と山の両方を楽しめる自然豊かなまち。釣りやキャンプなど、思い立ったら自然と触れ合えるのが魅力です。アウトドア好きには、まさに理想的な環境です。

魚が美味しい!

漁業が盛んな尾鷲市。自分で釣った魚を味わうのはもちろん、近くのお店で購入する魚も鮮度抜群です。東京からUターンしてきて、その恵まれた環境の素晴らしさを改めて実感しています。

山と海の魅力 尾鷲の自然再発見

また、山の中の仕事は日が暮れたら終わりになるので、残業もありません。仕事後の自由な時間が増え、充実した日々を送っています。

「地元の人にとっては当たり前かもしれないですが、尾鷲は『山のすぐそばに海がある』という、全国的にも珍しい環境なんです」と語る中森さん。東京に住んでいた頃の友人を尾鷲に招待すると、皆が口を揃えて「素晴らしい場所だね!」と感嘆すると言います。

また、第74回芥川賞を受賞した中上健次の小説『岬』の舞台として知られる熊野。その独特の世界観に惹かれ、物語の風土を肌で感じたいと訪れる人も多く、一度地元

を離れたからこそ、この地域の奥深さを改めて感じています。

夢は空き家リノベ 新たな暮らしへ

「尾鷲に移住して最も実感したのは、時間の使い方が自由になったことです」と話す中森さん。今後の夢は、尾鷲ならではの暮らしをさらに楽しむため、空き家を購入し、自分でコソコソと改装して住むことを計画。中。「住まいを自分の手で作り上げる楽しさを味わいたい」という思いから、現在は空き家バンクを利用しながら、理想の家を探すなど、夢を膨らませています。

都会での忙しさを手放し、自然と共に生きる道を選んだ中森さん。尾鷲の地で、仕事も趣味も充実させながら、自分らしい生き方を実現しています。

東京から尾鷲へ 自然と共に暮らす決断

地元・尾鷲で育ち、東京の専門学校を卒業後、スポーツトレーナーとして忙しい日々を過ごしていた中森さん。やりがいを感じる一方で、早朝から深夜まで働き詰めの日々、地方への頻繁な出張。次第に「この生活はいつまで続けられるのだろうか?」という不安が心をよぎるようになった。そんな折、両親の体調を気にかけるような出来事があり、「今だからこそこそで親孝行がある」と思い立ち、地元・尾鷲へのUターンを決意します。背中を押したのは、幼い頃から慣れ親しんだ自然への憧れが強かったこともあります。東京ではキャンプに行くにも時間とお金が必要でしたが、尾鷲なら海も山もすぐそこ。自然とともに、もっと自由な時間がある暮らしができると考えたのです。

林業という新しい 仕事への挑戦

東京ではサービス業に従事していた中森さんですが、2011年の東日本大震災をきっかけに「もっと地域に根ざした仕事したい」と思うようになり、地元で盛んだった第一次産業に興味を持ち始めます。そして、35歳のときに移住し、林業への転職を決意。未経験からの挑戦に不安もありましたが、ゼロからのスタートを切りました。

最初は急斜面を登るのも「苦労」。60代、70代のベテランが軽々と動き回る姿に圧倒されながらも、「転んで覚える」を繰り返して、体で学ぶ日々を過ごしていました。林業に携わって6年たった今でも学ぶことは尽きず、「経験を重ねて成長していきたい」と語ります。いつか現場を任される存在になることを目標に、日々挑戦を続けています。



中森 圭吾さん

尾鷲生まれ。高校卒業後、東京へ進学・就職。35歳で地元尾鷲へUターンし、林業に従事。仕事と趣味を両立しながら暮らしています。



移住先の住まい探しをサポート！

空き家バンク

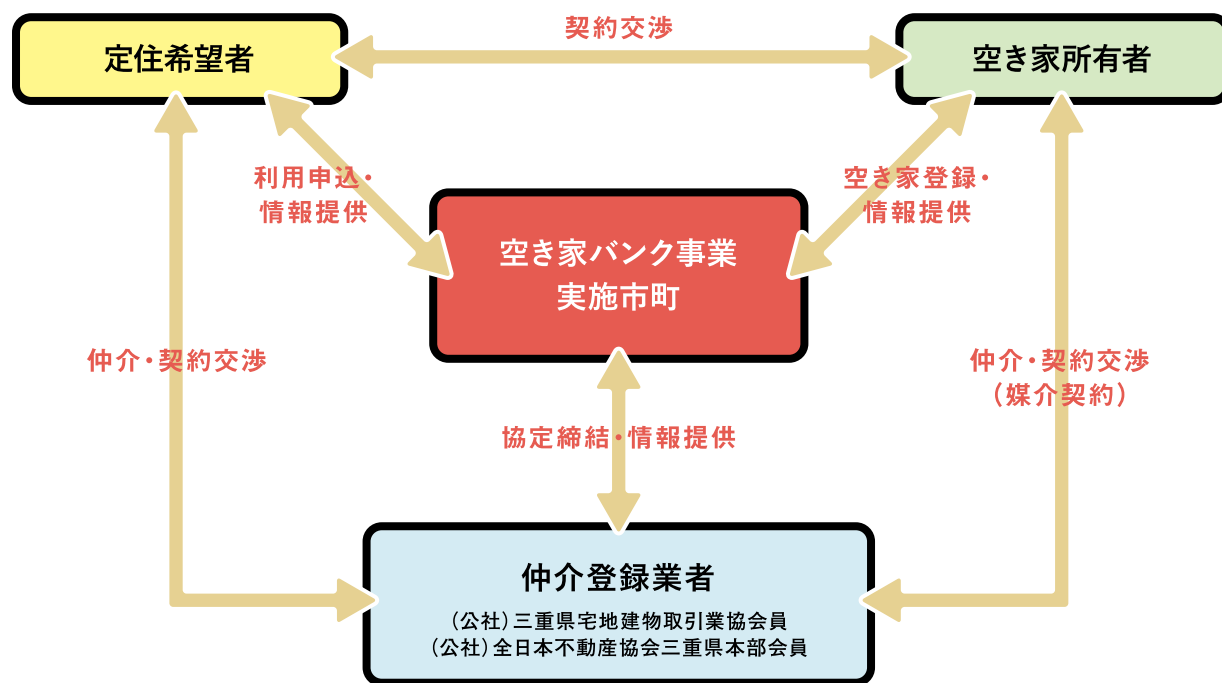
空き家バンク事業実施市町

県内全市町で実施

いなべ市・桑名市・四日市市・鈴鹿市・亀山市・東員町・木曽岬町・菰野町・朝日町・川越町・伊賀市・名張市・津市・松阪市(飯南・飯高・嬉野の一部地域)・明和町・多気町・大台町・大紀町・伊勢市・鳥羽市・玉城町・志摩市・度会町・南伊勢町・尾鷲市・熊野市・紀北町・御浜町・紀宝町

利用イメージ

利用イメージ図はあくまで一般的なもの。各市町で制度を運用していますので、詳細についてお問い合わせください。



県内の不動産情報

空き家バンク以外にも、「公益社団法人 三重県宅地建物取引業協会」や「公益社団法人 全日本不動産協会 三重県本部」のウェブサイトから物件の検索ができます。



ウェブサイトをご覧ください



ウェブサイトをご覧ください



移住後の暮らしをイメージ

三重県民のおさいふ事情

収入

●年間収入(1世帯あたり) 594.5万円 10位
世帯主収入(年間収入) 293.0万円 8位

食費や住居費の消費支出に占める割合が低く、貯蓄現在高は高いのが



実収入

消費支出

三重県 **58.3** 万円 全国 61.7 万円 三重県 **27.7** 万円 全国 29.1 万円

1世帯あたり1ヶ月の支出(2人以上の世帯)

	三重県	全国平均
食糧費割合(対消費支出)	26.0 % (30位)	26.6 %
住居費割合(対消費支出)	5.6 % (38位)	6.4 %
光熱・水道費割合(対消費支出)	8.2 % (29位)	8.4 %

物価

●消費者物価地域差指標

全国平均が100とすると……

三重県 **99.3** 東京都 104.7

ちなみに…

●百貨店・総合スーパー数(人口10万人あたり) 全国 **19** 位(0.97店)

貯蓄

●貯蓄現在高(1世帯あたり)

三重県 **1,448** 万円 全国 **19** 位 全国平均 1,450 万円

●一人あたりの県民所得 三重県 **298.9** 万円 全国 **22** 位

●パートタイムの給与(1時間あたり)

男性 三重県 **1,432** 円 全国 **18** 位

女性 三重県 **1,189** 円 全国 **14** 位

住居

●持ち家比率(対居住世帯あり住宅数)

三重県 **72.0** % 全国 **9** 位

東京都 45.0 %

●民間賃貸住宅の家賃(1カ月3.3㎡あたり)

三重県 **3,565** 円 全国 **37** 位

東京都 8,806 円 全国 **1** 位

家賃は東京の半分以下なんです！

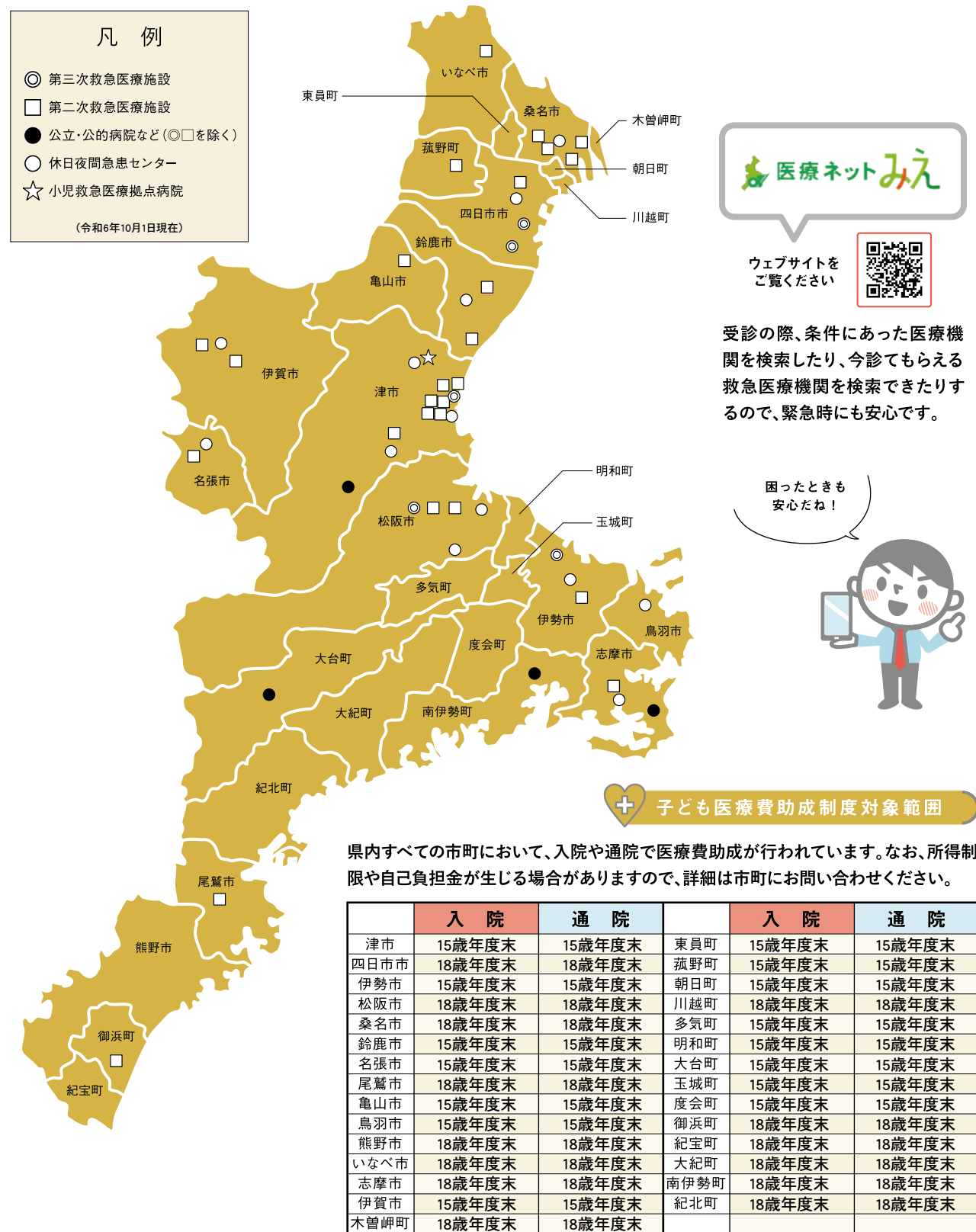


※出典はいずれも「統計でみる都道府県のすがた2023」



もしもの時に！

三重県救急医療体制図



子どもが豊かに育つ三重をめざして

三重で楽しい子育てライフ

三重県では、結婚や妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つ三重をめざして、子育て支援の充実や、男性の育児参画推進などに取り組んでいます。

三重での子育てライフを楽しんでみませんか？



県内の子育て情報冊子



県内各地の
応急診療所
ガイドを掲載

令和4年から変わった
育休制度も解説

三重県で
遊べる施設も紹介





漁業

Fishery

漁業といっても多種多様。南北に長い三重県では、北部の伊勢湾と南部の熊野灘でとれる魚も漁業もまったく異なります。まずは三重県の漁業や漁業就業、移住についての情報をウェブサイトなどで集め、海で働くステップにつなげてください。

▶ 就漁へのステップと支援事業

1 就漁相談

- ◆オンライン漁師育成機関「みえ漁師Seeds」の受講
- ・県内の漁業紹介動画や座学講座動画を見ることができ、若手漁業者の生の声が聞けます
- 「みえ漁師Seeds」ウェブサイト

みえ漁師Seeds

2 体験

- ◆各地で行われている漁師塾などの体験プログラムに参加
- ◆農林漁業体験事業(三重県農林水産支援センター)
- ・短期研修助成



3 就漁準備

- ◆就業等促進研修事業(三重県農林水産支援センター)
- ・長期研修助成
- ◆長期研修支援制度(水産庁)

4 就漁

- ◆沿岸漁業改善資金<経営等開始資金>(三重県)
- ・新たに漁業経営を開始しようとする者に経営開始資金を無利子で貸付
- ◆漁業経営改善制度<新規就業者型>(三重県)
- ・新たに漁業経営を開始してから3年未満の者が、漁業経営の改善計画を作成し、認定を受けることで、資金の融通や補助事業による支援を受けられる制度

Memo

漁師塾で「漁師という生き方」を学んでみませんか？

「漁師塾」は、漁協などが立ち上げた就業希望者のための研修の場で、漁業や漁村のことを深く知るための座学や現場での技術研修などが実施されています。実施期間や募集内容などはそれぞれで異なりますので、詳しくは三重県漁業担い手対策協議会に問い合わせいただくか、ウェブサイトをご確認ください。

三重県漁業担い手対策協議会ウェブサイト

あしたの漁師応援サイト三重

※漁師塾のことや、三重県内の漁業のこと、漁業の求人情報などを発信中

《Voice!》 おすすめは雇用型



腕一本で稼ぐ独立自営漁師に憧れる方は少なくありませんが、地域に地盤がないとなかなか難しいものです。漁師として働くには、漁村の一員になること、漁船や漁具をそろえること、ルールを守って魚をとる技術を磨くことなど、クリアすべきステップがいくつかあります。そこでおすすめなのが、「定置網漁業」や「船びき網漁業」などの漁業にまず就職し、

雇用型漁師として地域になじみながら独立自営漁師をめざすパターンです。この方法であれば、安定して収入を得られるとともに、漁業について教えてもらえたり、漁船や漁具のそろえ方を相談できる身近な知り合いが増えることから、結果的に独立自営漁師への近道となります。



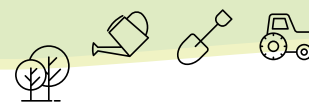
お問い合わせ

新規就漁の相談窓口

- ▶三重県漁業担い手対策協議会 TEL.059-228-6670
- ▶(公財)三重県農林水産支援センター(総務・担い手支援課) TEL.0598-48-1226

三重県の漁業について

- ▶三重県農林水産部(水産振興課) TEL.059-224-2606



農業

Agriculture

最近、定年退職後に自給的な農業を始められる方や、都市生活を切り上げて就農される方など、多彩な方々が新規就農されています。三重県では、U・Iターンにより新規就農をめざす皆さんの思いを実現するための受け入れ体制づくりにも積極的に取り組んでいます。

▶ 就農へのステップと支援事業

1 就農相談

- ◆三重県農林水産支援センター・農業改良普及センターの相談窓口での相談
- ◆県農業大学校への入校相談
- ◆農林漁業就業・就職フェアでの就職相談
- ◆無料職業紹介所での相談



2 体験

- ◆三重県農林水産支援センターの体験・研修事業
- ・就業促進研修事業
- ・農林漁業体験事業
- ◆各地で行われている体験研修に参加



3 就農準備

- ◆農業大学校での技術・経営の実践的研修
- ・一年課程、二年課程
- ◆就農準備資金の交付(年間150万円を最長2年間)
- ◆みえ農業版MBA養成塾(1年課程)
- ・「農業をビジネスとして展開できる企業家」、「農業法人のビジネスマネージャー」などを志し、自らがビジネスプランを描ける経営センスを持った人材を育成
- ・先駆的な農業法人などで働きながら学ぶ場を提供
- ・産学官が連携し、質の高いプログラムを提供

4 就農

- ◆新規就農者の重点支援
- ・就農5年目までの新規就農者対象(栽培技術、経営管理)
- ◆施設・機械などの整備補助(経営発展支援事業)
- ◆経営開始資金の交付(年間150万円を最長3年間)
- ◆青年等就農資金の貸付
- ・農業経営を開始するために必要な資金を無利子で貸付
- ◆雇用就農資金の交付
- ・雇用就農者の研修経費助成(最長4年間)
- ・新法人設立に向けた研修経費助成(最長4年間)
- ・次世代の経営者の育成に向けた研修経費助成(最長2年間)

- ◆みえの就農サポートリーダー制度
- ・サポートリーダーのもとで技術習得に向けた実践的研修
- ・農地や住居の確保、地域への溶け込み支援

《Voice!》 三重でWell-being(ウェルビーイング)な暮らしを見つけた!



東紀州
エリア

■ 移住者プロフィール Profile

福田大輔さん、なおみさん
家族4人(本人、妻、長男、長女)と犬6匹

神奈川県横浜市→熊野市(2016年)→
御浜町(2020年~)

移住を考え始めたのは、都会で暮らしていて、どこか居心地の悪さを感じていたからです。最初は熊野の山の方に移住し、しばらくして、農業を生業にしたいと考え始め、野菜も頭にあったのですが、この辺りは「みかんの産地」なので、どうせなら「みかんをやりよう」と。その後、サポートリーダーの元で2年間の研修を経て、御浜町に移り、2020年に独立しました。

農業は大変なことも多いけど、地元の先輩方に教えていただきながら、日々、試行錯誤しながらやっています。他の農家さんもライバ

ルというよりは、一緒に産地を盛り上げる同志という感じの関係が良いところだなと。

僕は生き物が好きなので、植物と向き合う日々が幸せで。そして奥が深く正解のない農業という仕事に魅了されて、夢中で走り続けています。忙しい中でも、ふと目の前に広がる自然豊かな風景を見ながら、この暮らしがくれた「今までの人生になかった幸せ」を噛み締めています。最近、息子が「ボクもお父さんみたいにみかんをやりようかな」とふと言っているのを聞いて、何だか嬉しくなりました。



お問い合わせ

新規就農の相談窓口

- ▶(公財)三重県農林水産支援センター(総務・担い手支援課) TEL.0598-48-1226
- ▶三重県農林水産部(担い手支援課) TEL.059-224-2354
- ▶(一社)三重県農業会議 TEL.059-213-2022
- ▶三重県農業大学校 TEL.0598-42-1260



相談

Consultation

移住するにあたって気になるのが、仕事のこと。安定した生活のためには、働くことが重要になってきます。三重県は農林水産業などの第1次産業だけでなく、自動車産業などのものづくり産業や、サービス業も多く、魅力的な企業がたくさんあります。

▶どんな仕事があるの？三重県の「おしごと」事情

三重県の北中部には、四日市市や鈴鹿市を中心に、先端技術を駆使したもののづくり産業や、化学コンビナートなど、多くの企業があります。一方、県南部は、山・川・海に囲まれ、農林水産業などの第1次産業のほか、観光や宿泊などのサービス業が盛んです。

三重県では、ワーク・ライフ・バランスの実現や働き方改革に積極的な企業の登録・表彰を行い、その優れた取組を県内に広めています。ぜひ就職のヒントにお役立て下さい。詳しくは、「みえの働き方改革推進企業」で検索！



1 おしごと広場みえ

おしごと広場みえは、三重県津駅に隣接するアスト津で就職をめざす若者等にさまざまな支援を行っています。県内のオススメ企業情報の紹介のほか、経験豊富な相談員が親身になって就職をサポートしており、県内企業の求人検索や紹介状の発行も可能です。

特に、オンラインでの相談予約やイベント予約のほか、様々なオンラインサービスがありますので、是非ご利用ください。他にも三重県関西事務所での出張相談（予約制）を毎月2回行っています。いつでも気軽にお立ち寄りください。

おしごと広場みえ



関西での相談のお申し込みはこちらから



information

おしごと広場みえ

- 開館日時／平日 9:00～18:00
第1・第3土曜日 11:00～17:00
(就職相談のみ)
(祝日年末年始除く)
- 住所／三重県津市羽所町700
アスト津3階
- アクセス／JR・近鉄津駅隣接
- TEL／059-222-3309
- ※Zoom等によるオンライン相談可

information

みえU・Iターン就職相談in関西

- 開館日時／第2・4水曜日
(祝日年末年始除く) 11:00～16:00
- 住所／大阪府大阪市北区梅田1-11-4
大阪駅前第4ビル8階 三重県関西事務所内
- 3日前までに専用Web予約ページ
(左記二次元コード)、または電話で
ご予約ください
- TEL／059-222-3309
- ※Zoom等によるオンライン相談可

2 美し国みえ移住相談センター

美し国みえ移住相談センターは東京・有楽町にある東京交通会館の8階にあります。就職相談アドバイザーを配置しているので、移住に関する相談だけでなく、三重県での就職についての相談が可能です。

また年間を通じて移住相談会での就職相談や、U・Iターンセミナーを開催しています。セミナーには三重県企業の人事担当者も参加。直接会話することで、普段はなかなか聞けない三重県の就職に関する情報が聞けるかもしれません。ぜひ移住相談センターに、お気軽にお立ち寄りください。

相談のお申し込みはこちらから



information

就職相談アドバイザー

- 開館日時／火曜～日曜
(祝日年末年始除く) 10:00～18:00
- 就職相談：火・木・金・土・日
- 住所／東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8階 認定NPO法人
ふるさと回帰支援センター内
- アクセス／JR山手線・地下鉄有楽町線有楽町駅徒歩1分、地下鉄銀座線・丸ノ内線・日比谷線銀座駅徒歩3分
- TEL／080-7039-4764
- Email／u-oshihiro05@mie-kinfukukyo.or.jp
- HP／https://peraichi.com/landing_pages/view/mie-job
- ※Zoom等によるオンライン相談可

注目情報

三重県で働きたい方を応援します。「みえの仕事マッチングサイト」には三重県内の求人情報が満載！

みえの仕事マッチングサイト



Memo

東京圏から「みえの仕事マッチングサイト」を通じて就業・移住された方には、移住支援金が支給される場合があります。

詳しくはこちらへ

三重県移住支援金



「みえの仕事さがし ch.」には三重県で暮らして働くために必要な情報を掲載しています！

みえの仕事さがし ch



林業

Forestry

三重県には37万haの森林があり、県土の3分の2を占めています。林業はこの広大な森林を支える重要な仕事です。自分が手入れした森林が成長していく姿を見る喜びは格別です。また、就業後には技術研修等に参加することでキャリアアップを図ることも可能です。

▶林業Q&A 三重で林業を始めたいあなたの疑問にお答えします！

Q1 林業ってどんな仕事ですか？

A1 木を植え、下刈りや間伐などをして長い年月をかけて木を育て、収穫期に伐採して利用し、またそこに木を植えるというサイクルを繰り返すのが林業の基本です。この中で、チェーンソーや刈払機といった動力機械を扱ったり、高性能林業機械を操作したり、苗木を育てたり……と、その内容は幅広いものとなっています。

Q2 林業に必要な資格はありますか？

A2 例えば、業務でチェーンソーを扱う労働者は、労働安全衛生規則に基づく特別教育を修了している必要があります。その他にも、重機類を操作するための特別教育や技能講習などが複数あります。これらの講習などを修了しておくことで就職に有利に働く場合があります。なお、これらは就職後に「緑の雇用」研修の中でも受講することができます。

必要な特別教育等の例

- ▶伐木などの業務に係る特別教育
- ▶刈払機取扱作業員に対する安全衛生教育
- ▶車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)運転技能講習 etc……

Q3 林業を始めるには、どうすればよいですか？

A3 まずは、森林組合などの林業事業体に就職することから始めてください。三重県では、(公社)みえ林業総合支援機構や林業事業体が(公財)三重県農林水産支援センター主催の「三重県農林漁業就業・就職フェア」にブース出展し、就職相談会を行っていますので、このような場を活用して林業事業体の情報を収集する方法などがあります。

《Voice!》 林業の面白さや魅力を後に続く人にしっかり伝えていきたい



中 勢
エリア

■移住者プロフィール

Profile

長森 悠介さん

東京都から松阪市へ移住

中央大学法学部出身。大学時代にたまたま手にとった小説「神去なあなあ日常」(三浦おん著)に描かれた林業の様子が、大学で研究していたテーマ「次世代の人たちのために今、何をすべきか」に共通する“何か”を感じ、今までまったく縁がなかった「リンギョウ」を強く意識するようになりました。それからは林業関係の本を読み漁ったり、事業体に問い合わせたりした末に、「神去なあなあ日常」の取材協力欄に記載されていた「松阪飯南森林組合」が新卒職員募集をしていることを知り、職場見学、採用試験、面接を経て採用されました。測量や事務などの内勤業務もある中、希望した現場作業の業務により林業従事者としての第一歩を踏み出しましたが、最初はチェーンソーなど



の用具類を持って山の中を移動することが大変で、心がけようになりました。しかし、3か月ぐらいで慣れ、なんとも思わなくなりました。

慣れるまでの忍耐は必要とはいえ、体力面での不安だけで林業への就職をあきらめてしまうのは早計かもしれません。三重県では、未経験者であっても、働きながら学べる「緑の雇用」事業をはじめとした研修プログラムもしっかりと用意されています。また、法律、経営、経済、環境、防災、気象など幅広い知識

が求められるのが今の林業です。この業界に転職を考えている人も、それまでの経験が役に立つ場面があると思います。

林業で働く中で一番大切なのはコミュニケーションです。わからないことは素直に聞く。私も、うさぎかられるぐらい先輩に話しかけたし、この地方の独特の言い回しや言葉遣いも覚えました。新しい環境に早く馴染むためには心掛けた方がスムーズに環境へ適応できるかなと思います。



お問い合わせ

新規就業の相談窓口

「林業への就業相談全般」について
三重県の森林・林業について
「緑の雇用」について

▶(公益社団法人)みえ林業総合支援機構 TEL.059-261-4760
▶三重県農林水産部(森林・林業経営課) TEL.059-224-2991
▶三重県森林組合連合会 TEL.059-227-7355

熊野市



まちぐらしの家

- 住所／熊野市木本町
- お問い合わせ先／熊野市市長公室
- TEL／0597-89-4111 (内線317)
- FAX／0597-89-5501

熊野市の市街地に立地している住宅です。徒歩5分～15分圏内にコンビニやスーパーがあり、仕事や住居などを探するための長期滞在にうってつけです。車で30分ほどで海山川の自然を感じられるエリアに行くこともできます。この住宅を活用して、一緒に熊野市で住む場所、働く場所を探しませんか？

熊野市



うみぐらしの家

- 住所／熊野市新鹿町
- お問い合わせ先／熊野市市長公室
- TEL／0597-89-4111 (内線317)
- FAX／0597-89-5501

熊野市の海岸エリアの移住体験ができる住宅です。熊野市がどんなところか知っていただく短期滞在から、仕事や住居などを探するための長期滞在まで、ニーズに合わせた利用ができます。きれいな海水浴場が徒歩5分ほどの場所にあります。この住宅でまずは田舎暮らしを体験してみてください。

尾鷲市



九鬼移住体験住宅「みやか」

- 住所／尾鷲市九鬼町
- お問い合わせ先／(移住相談窓口) おわせ暮らしサポートセンター
- TEL／0597-37-4010
- Email／owasegurashi@gmail.com

九鬼移住体験住宅「みやか」は、人口400人弱の小さな漁村集落・尾鷲市九鬼町にあります。「尾鷲に住みたいと思っているけど、滞在しながら家探しや仕事探しをしたい」というあなたのために、田舎暮らしを体験できる移住体験住宅を用意しております。

大台町



大杉谷暮らし体験施設

- 住所／多気郡大台町久豆
- お問い合わせ先／特定非営利活動法人大杉谷自然学校
- TEL／0598-78-8888
- FAX／0598-78-8889
- E-mail／info@osugidani.jp

大杉谷は大台町の最奥部にある全国有数の水質を誇る宮川沿いに広がる地区です。吉野熊野国立公園への玄関口であり、素晴らしい自然に恵まれています。また、地域には昔ながらの暮らしの知恵を教えてください。自然や地域の知恵を学ぶ体験学習も多数実施しています。ぜひ、一度、大杉谷に遊びに来てください。

松阪市



田舎暮らしお試し住宅

- 住所／松阪市飯高町宮前
- お問い合わせ先／柚人の里協同組合
- TEL／0598-46-0208
- FAX／0598-46-0223

櫛田川・高見山地に代表される豊かな自然を味わいながら、この地域ならではの風土・田舎文化に触れてみませんか？三重の木材を使用した木造住宅を1カ月以上2カ月以内で利用できます。道の駅飯高駅まで徒歩5分！平成30年7月、櫛田川の河川敷に幼児でも安心して遊べる川遊び場が整備され、親子でも楽しめます。

移

住に際して、住みたいと思う地域を訪れることは大切なポイント。実際に下見をして移住への不安を解消すれば、地域への理解も深まります。移住を考えたらずば「下見や「お試し」でその後の暮らしをイメージしてみよう！

下見のススメ

暮らし体験



南伊勢町



SHINMINATO・灯-AKARI-

- 住所／度会郡南伊勢町五ヶ所浦1007番地31
- お問い合わせ先／むすび目 Co-working
- TEL／0599-77-4227
- Email／musubime.co@gmail.com

南伊勢町への移住を考えている方向けの短期移住体験施設です。伊勢志摩エリアでいちばんの田舎町、自然豊かな南伊勢での暮らしを体験することができます。

伊勢市・尾鷲市



県営住宅で本格的に「移住」

- 住所／伊勢市・尾鷲市
- お問い合わせ先／三重県住宅政策課
- TEL／059-224-2703
- Email／jutaku@pref.mie.lg.jp



伊勢神宮で有名な伊勢市や、世界遺産「熊野古道」が通る尾鷲市での本格的な移住を考えている方には、コチラがオススメ。「定住用」として最長5年ご利用いただけます。家賃は一般の県営住宅並みに低額に設定していますので、何かとお金の掛かる移住の最初の住まいとして、いかがでしょうか。伊勢市内に3DKを2戸、尾鷲市内にも3DKを2戸用意させていただきます。(写真は尾鷲市内の県営住宅古江団地) 申請時点で6か月以上県外に在住していることなど、入居の要件がありますので、県HPなどでご確認ください。

伊賀市・名張市



県営住宅で三重の暮らしを「お試し」

- 住所／伊賀市・名張市
- お問い合わせ先／三重県住宅政策課
- TEL／059-224-2703
- Email／jutaku@pref.mie.lg.jp



三重県が管理・運営する県営住宅を「お試し用」として、最短1ヵ月からご利用いただけます。家賃は一般の県営住宅並みに低額で、しかも「お試し用」なので敷金も免除と、リーズナブルな条件でご利用いただけます。伊賀市内に2LDKを2戸、名張市内にも2LDKを2戸用意させていただきます。(写真は名張市内の県営住宅蔵持団地) 申請時点で6か月以上県外に在住していることなど、入居の要件がありますので、県HPなどでご確認ください。

紀北町



きほくコマツバラ

- 住所／紀北町船津
- お問い合わせ先／紀北町企画課企画係
- TEL／0597-46-3113
- FAX／0597-47-5908

紀北町での暮らしを体験してみませんか？集合住宅の1部屋を改装した体験住宅を準備しました。最大3か月までの利用が可能です。車がなければ少し不便なところですが、紀北町を体感したい場合はぜひご利用ください。体験住宅以外にも短期滞中に利用できる補助金がありますので、お問い合わせください。

紀宝町



紀宝町お試し住宅

- 住所／南牟婁郡紀宝町高岡
- お問い合わせ先／紀宝町移住定住サポートデスク
- TEL／080-6963-1792(代表)
- Email／supportdesk@kiho-town.com

田舎への移住を検討している方のために、町内の住宅を無料(※)で貸し出し、お試し生活をしていただく取組を行っています。申込方法など、詳しくはお問い合わせください。利用対象者は、紀宝町に移住や定住を考えている方。期間は、1泊2日～6泊7日。※交通費・食費・消耗品にかかる費用などは利用者負担

御浜町



ウェルカムハウス御浜

- 住所／南牟婁郡御浜町大字阪本
- お問い合わせ先／御浜ローカルボ移住・交流サポートデスク
- TEL／05979-9-1654
- E-mail／info@kokoterrace.com

「移住を迷っている」「地域の雰囲気や人柄を知りたい」あなたに。必要備品が全て整った「移住希望者用お試し住宅」で、まずは1日だけでも暮らしを体験してみませんか？日本唯一の「風伝おろし(朝霧)」が美しい尾呂志地区の一軒家を賃切でご利用いただけます。期間は、1泊2日～1週間程度。1泊あたり1棟貸切で1,000円。

しっかり準備して
快適な暮らしを！



移住までのSTEP 9



自分や家族のライフスタイルを大きく変える移住。憧れの暮らしを実現する幸せな移住のためには、しっかりと準備をすることが大切です。ここでは、基本となる9つのステップを紹介します。

Start!

STEP 1

移住の目的を確認しよう

なぜ移住したいのか、移住した先で何をやりたいのか、どのような暮らしをしたいのか目的を明確にしましょう。「農業がしたい」「家族でこんな暮らしがしたい」など、目的やライフスタイルを具体的にイメージすることで、移住への道のりが見えてきます。

STEP 2

パートナーや家族に相談しよう

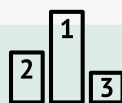
パートナーや家族は移住について賛成でしょうか。お互いの気持ちや、どのような暮らしをしたいのかについて、じっくりと話し合うことが大切です。定住以外にも週末移住など2地域居住という方法もあります。家族が幸せになれる生活について考えましょう。



STEP 3

優先順位をリストアップ

移住後の生活に求めるものは人それぞれです。「海の近くに住みたい」「都会に近い方が良い」「農業をしたいので支援制度がしっかりしているところが良い」など、移住後の生活をイメージする中で何を優先するのか、優先順位を3つぐらいに絞って考え、それをもとに情報収集をしましょう。

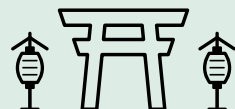


移住生活への
不安に答えます！

移住 Q&A

Q1 地域に溶け込むには
どうしたらいいですか？

A1 郷に入ったら郷に従いましょう。地域はそれぞれに、風習やしきたり、伝統文化があり、それが地域の魅力となっています。そうしたものを尊重し、地域の行事に積極的に参加すれば、地域との絆は深まっていきます。



Q2 地方は不便ですか？
マイカーは必要ですか？

A2 不便です。都会のように公共交通機関が充実しているわけではありません。公共交通機関はありますが、本数が少ないので自分の都合の良い時間にあるとは限りません。マイカーは地方での暮らしにおいて必需品となります。



Q3 ご近所付き合いは
どうすればいいですか？
また田舎では
プライバシーがないと
聞いたのですが……

A3 田舎では周りの人が移住者の生活状況を観察しています。田舎の人は地域で助け合って暮らしてきたので、移住者だけではなく、常に周りの人々の状況を気にかけています。また、都会からやって来た人々がどのように暮らしているのかは非常に興味があります。こうした状況をうまく活用して地域の人々に溶け込めば、楽しい田舎暮らしができます。

STEP 4

情報収集の コツ



住んでみたい地域がある人は、その地域を訪れて移住相談窓口や民間の不動産業者を訪ねるのが早道です。そうでない人は、移住後の暮らしをイメージして、自分の希望に合った地域を探すために、まずは情報を集めましょう。「全国移住ナビ」などの移住情報サイトを活用したり、移住・交流に関する総合的な情報提供を行う「認定NPO法人ふるさと回帰支援センター」や「移住・交流情報ガーデン」などを訪れる手もあります。



STEP 7

仕事の 探し方



東京にU・Iターンの就職相談窓口を置いている自治体が数多くあります(P29)。また、ハローワークのインターネットサービスでは、市町村単位で検索ができます。移住をめざす地域がある場合は、それらを活用するのも良いでしょう。農林水産業に関心がある方は、農林水産業就職フェアに参加したり、(公財)三重県農林水産支援センターの新規就業相談窓口(P26~28)に相談すると良いでしょう。



STEP 5

お試し体験を してみましょう

いざ暮らし始めると、憧れていたことと現実のギャップが必ず生じます。あらかじめそのギャップを少しでも知り、埋めていくために、希望する地域を訪れ、地域の生活を体験しておきましょう。お試し住宅や体験ツアーなどを実施している市町が多数あります(P30)。体験を通して出会う人から、たくさんの情報が得られるはずですよ。

STEP 6

空き家見学の コツ



空き家バンク制度を設ける市町も多く、賃貸で住める場合もあります。空き家は傷んでいる物件が多く、また、立地条件もさまざまです。必ず現地へ訪れ、見学をしましょう。見学の際は特に水回りを中心に家の状態をしっかりとチェックすることが大切です。また、空き家のこと以外にも、対応いただいた業者や担当者にその地域の生活情報や習慣をうかがっておきましょう。

Finish!

STEP 8

移住前の 準備



移住先が決まったら、引っ越し費用や建物の補修費用、当面の生活費など移住にかかる費用を見積もります。予想外の支出も生じますので、貯蓄は余裕がある方が安心です。事前に何度か通い、その地区の区長さんにあいさつするなど、地元の人たちと少しでも交流があれば移住もスムーズに行えます。地方での暮らしにおいて車は必需品のため、車の運転免許も可能な限り取得しておきましょう。

STEP 9

あいさつ回りを しよう

無事、引っ越しが終わったら、地区の区長さんやお世話になった方に改めてあいさつにうかがいます。これからもお世話になるお礼に手土産を持参するのが普通です。また、近所の方々へのあいさつ回りも必要です。地域によっては数十軒に及ぶ場合もありますので、区長さんに相談すると良いでしょう。また、道で出会う人にも気軽にあいさつを交わしましょう。あいさつがその地域に溶け込む第一歩になります。





あなたの「三重暮らし」を応援します！



市町相談窓口・三重暮らし応援制度一覧

移住相談窓口

三重で暮らすためには、現地情報の収集が大切。三重県では、地元のサポート体制や地域の様子など、どんなことも気軽に相談いただける窓口を設置。あなたの「三重暮らし」を全力で応援します！

東京

美し国みえ 移住相談センター

- 移住相談アドバイザー
- 就職相談アドバイザー

- 開館日時／火曜～日曜（祝日除く）10:00～18:00
- 住所／東京都千代田区有楽町2-10-1
- 東京交通会館8階 認定NPO法人ふるさと回帰支援センター内
- TEL／080-9512-5093
- Email／mie@furusatokaiki.net

Facebook、X(旧 Twitter)やってます。

三重県 移住



三重

地域連携・交通部 移住促進課 (三重県庁)

- TEL／059-224-2420
- Email／iju@pref.mie.lg.jp

美し国みえ移住ポータルサイト

三重県 移住



		お問い合わせ先		住　　む						働　　く						医　療　・　子　育　て							
				田舎暮らし体験	空き家バンク	移住アドバイザー	住宅助成 (取得・修繕)	移住支援助成	短期滞在住宅	農林漁業体験	就農支援	就漁支援	起業支援	求人バンク	空き店舗バンク	子ども医療費支援	交流相談の場 (子育て支援センター等)	預かり保育・一時保育	ファミリーサポートセンター	病児・病後保育	放課後児童クラブ		
		窓口(担当部署名)	TEL	E-mail																			
北勢	いなべ市	住宅課	0594-86-7809	juutaku@city.inabe.mie.jp			○						○		○			○	○	○	○	○	○
	桑名市	SDGs推進課	0594-24-7441	sdgsm@city.kuwana.lg.jp			○		○	○			○		○			○	○	○	○	○	○
	四日市市	観光交流課	059-354-8286	kankou@city.yokkaichi.mie.jp			○		○	○			○		○			○	○	○	○	○	○
	鈴鹿市	住宅政策課	059-382-7616	jutakuseisoku@city.suzuka.lg.jp			○		○	○			○		○	○		○	○	○	○	○	○
	亀山市	政策推進課政策調整グループ	0595-84-5770	seisoku@city.kameyama.mie.jp			○	○	○	○					○			○	○	○	○	○	○
	東員町	政策課	0594-86-2811	seisoku@town.toin.lg.jp			○		○	○			○					○	○	○	○	○	○
	木曽岬町	総務政策課	0567-68-6100	soumu@town.kisosaki.mie.jp			○		○				○		○			○	○	○	○	○	○
	菰野町	企画情報課	059-391-1105	keyaki@town.komono.mie.jp			○											○	○	○	○	○	○
	朝日町	産業建設課	059-377-5658	sanken@town.asahi.mie.jp			○											○	○	○	○	○	○
	川越町	企画情報課	059-366-7112	k-kikaku@town.kawagoe.mie.jp			○		○									○	○	○	○	○	○
伊賀	伊賀市	地域創生課 移住定住係	0595-22-9680	chisou@city.iga.lg.jp		○	○	○	○	○		○	○		○			○	○	○	○	○	○
	名張市	広報シティプロモーション推進室	0595-63-7782	pr@city.nabari.lg.jp		○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
中勢	津市	政策課	059-229-3101	229-3101@city.tsu.lg.jp		○	○	○	○	○			○		○			○	○	○	○	○	○
	松阪市	企画振興部 地域づくり連携課 移住促進係	0598-46-7113	matsu.ijyu@city.matsusaka.mie.jp		○	○		○	○	○							○	○	○	○	○	○
	明和町	まちづくり戦略課	0596-52-7112	senryaku@town.mie-meiga.lg.jp			○			○								○	○	○	○	○	○
	多気町	企画調整課	0598-38-1124	kikaku@town.mie-taki.lg.jp			○	○	○	○			○		○			○	○	○	○	○	○
	大台町	生活環境課	0598-82-3787	odai-kan@odaitown.jp			○	○	○	○			○		○		○	○	○	○	○	○	○
	大紀町	総務企画課	0598-86-2212	som@town.mie-taiki.lg.jp			○		○	○		○						○	○	○	○	○	○
伊勢志摩	伊勢市	企画調整課	0596-21-5510	kikaku-cyousei@city.ise.mie.jp			○		○	○			○		○			○	○	○	○	○	○
	鳥羽市	企画財政課移住・定住係	0599-25-1227	iju-teiju@city.toba.lg.jp		○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○
	志摩市	経済課	0599-44-0010	keizai@city.shima.lg.jp		○	○		○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
	玉城町	まちづくり推進課	0596-58-8208	chiikiokoshi@town.tamaki.lg.jp			○		○	○			○					○	○	○	○	○	○
	度会町	みらい安心課	0596-62-2423	mirai@town.watarai.lg.jp			○	○	○	○			○					○	○		○	○	○
	南伊勢町	むすび目Co-working	0599-77-4227	musubime.co@gmail.com			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東紀州	尾鷲市	おわせ暮らしサポートセンター	0597-37-4010	owasegurashi@gmail.com		○	○	○		○	○					○	○	○	○			○	
	熊野市	市長公室	0597-89-4111(内線317)	kumano_sumo@zd.ztv.ne.jp			○	○	○	○	○	○		○						○		○	
	紀北町	企画課	0597-46-3113	kikaku@town.mie-kihoku.lg.jp		○	○	○	○	○	○		○			○		○				○	
	御浜町	御浜町移住・交流サポートデスク	05979-9-1654	info@kokoterrace.com		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○
	紀宝町	紀宝町移住定住サポートデスク	080-6963-1792(代表)	supportdesk@kiho-town.com		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○

令和7年1月現在

＼三重の人や暮らしとつながるきっかけをお届けします！／



🔍 三重の人や暮らしとつながるコミュニティ「日々三重」

●お問い合わせ先／三重県移住促進課 ●TEL／059-224-2420
●E-mail／iju@pref.mie.lg.jp

＼三重の暮らしを体験できる施設がたくさんあります！／



🔍 三重の里 いなか旅のススメ

●お問い合わせ先／三重県農山漁村づくり課 ●TEL／059-224-2518
●E-mail／nozokuri@pref.mie.lg.jp

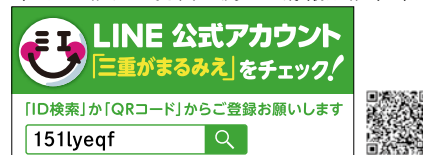
＼全国の避難場所やハザードマップが確認できます！／



🔍 みえ防災ナビ

●お問い合わせ先／三重県地域防災推進課 ●TEL／059-224-2185
●E-mail／bosai@pref.mie.lg.jp

＼三重の移住や就職お役立ち情報配信中！／



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

🔍 LINE 公式アカウント「三重がまるみえ」

●お問い合わせ先／三重県人口減少対策課 ●TEL／059-224-3415
●E-mail／jinkou@pref.mie.lg.jp

■ 発行

■ お問い合わせ先

令和7年3月発行



三重県 地域連携・交通部 移住促進課
TEL.059-224-2420 FAX.059-224-2219
E-mail iju@pref.mie.lg.jp



美し国みえ移住ポータルサイト

